



# 2020年度 愛知県公立高校入試問題

## Aグループ 分析コメント

教科	コメント
国語	<p><b>【難易度】(2019年度との比較) 変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>現代文は説明的文章が2題出題された(随筆と論説)が、2019年度ほど抽象度の高い文章ではなかった。また、全体の文章量も2019年度より減少した。</li><li>設問数は18問で、うち4問が2点配点のものであった(2019年度と同じ)。</li><li>古典は漢文(書き下し文)が出題されたが、例年に比べて内容は理解しやすいものであった。</li><li>文章の展開や段落の関係を問う設問は、文章の内容を理解する以上の力が必要であり、差のつきやすいものであった。</li></ul>
数学	<p><b>【難易度】(2019年度との比較) 変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>資料の活用に関する問題や座標幾何の問題は、目のつけどころ、アプローチの仕方にとまどうもので、2019年度より取り組みにくかった。一方、図形の問題では、学習したことのある比較的取り組みやすい問題が出題されており、2019年度より取り組みやすかった。</li><li>2019年度に出題されていた空欄補充形式の証明は出題されなかった。</li><li>大設問2(1)正の数・負の数を利用した従来と異なる問題が出題された。</li></ul>
社会	<p><b>【難易度】(2019年度との比較) 変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>歴史と地理の小設問数は、2019年度の歴史8問、地理7問から、2020年度は歴史7問、地理8問となり、地理の出題割合と配点が増加した。</li><li>歴史分野の大設問1(3)で、資料から文章(25字)で抜き出す問題が出題された。</li><li>地理分野の大設問3は、複数の統計資料や地図などから都道府県や国を判断し、そこから各問題にあたるという形式で、最初に判断を誤ると複数の問題に影響を与える事になり、得点差がつきやすかった。</li></ul>
理科	<p><b>【難易度】(2019年度との比較) 易化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>作図問題が1問、グラフ問題が1問出題された。</li><li>2019年度同様、文章の穴埋め問題が出題された。</li><li>また、会話文も出題されたが、2019年度よりも文章量が増加している。</li><li>物理分野で、浮力に関する発展的な問題が出題された。</li><li>生物分野では実験結果をもとに答える問題が出題され、実験結果を正しく読み取る力が問われた。</li><li>地学分野の出題では思考力を問う問題が出題された。</li><li>難解な問題も出題されたが、2019年度の難易度がかなり高かったため比較すると易化した。</li></ul>
英語	<p><b>【難易度】(2019年度との比較) 変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>筆記検査-大設問1の条件英作文が、2019年度は5語以上で絵の状況を説明する形式であったが、2020年度は、グラフの内容を読み取り、自分の考えを述べる形式であった。</li><li>2019年度に続き、筆記検査-大設問3の長文読解(5)〔内容把握を問う問題〕は、答えが1つとは限らないものであった。</li><li>教科書の表現を確実に理解することにより、解答できる問題が多く見られた。</li></ul>